

# 四半期報告書

(第41期第3四半期)

株式会社 セレスポ

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】	
第一部 【企業情報】 .....	1
第1 【企業の概況】 .....	1
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	1
2 【事業の内容】 .....	1
第2 【事業の状況】 .....	2
1 【事業等のリスク】 .....	2
2 【経営上の重要な契約等】 .....	2
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	2
第3 【提出会社の状況】 .....	4
1 【株式等の状況】 .....	4
2 【役員の状況】 .....	5
第4 【経理の状況】 .....	6
1 【四半期財務諸表】 .....	7
2 【その他】 .....	11
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	12

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第41期第3四半期（自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社セレスポ
【英訳名】	CERESPO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 稲葉 利彦
【本店の所在の場所】	東京都豊島区北大塚一丁目21番5号
【電話番号】	03 (5974) 1111 (代表)
【事務連絡者氏名】	コーポレート本部経理部長 久保田 裕
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区北大塚一丁目21番5号
【電話番号】	03 (5974) 1111 (代表)
【事務連絡者氏名】	コーポレート本部経理部長 久保田 裕
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 累計期間	第41期 第3四半期 累計期間	第40期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	10,208,758	10,316,699	12,272,539
経常利益 (千円)	1,077,267	900,612	592,107
四半期(当期)純利益 (千円)	721,973	599,530	378,220
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	1,370,675	1,370,675	1,370,675
発行済株式総数 (株)	2,851,750	2,851,750	2,851,750
純資産額 (千円)	4,944,513	5,095,057	4,599,502
総資産額 (千円)	8,206,820	8,697,706	7,117,475
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	263.46	218.79	138.02
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	40.00
自己資本比率 (%)	60.2	58.6	64.6

回次	第40期 第3四半期 会計期間	第41期 第3四半期 会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	222.25	225.46

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社がないため記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 平成28年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当社では平成27年4月にスタートした「中期経営計画Ⅲ」に基づき、引き続き収益性の向上に取り組んでまいりました。

売上高に関しては、受注単価のアップもあり順調に推移しましたが、費用面において、外部労務費や運送費の上昇などにより外注費が増えたため、収益面では前年同期比で厳しい状況で推移しました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は10,316百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益は888百万円（前年同期比16.5%減）、経常利益は900百万円（前年同期比16.4%減）、四半期純利益は599百万円（前年同期比17.0%減）となりました。

各部門別の状況は次のとおりであります。

#### [セレモニー部門]

案件受注数と行幸啓行事案件の金額は減少しましたが、建設式典と記念式典の大型案件が増加したことにより、売上高は2,850百万円と前年同期比2.7%の増収となりました。

#### [スポーツ部門]

案件受注数と国体案件の金額は増加しましたが、陸上競技と運動会の大型案件が減少したことにより、売上高は2,664百万円と前年同期比3.6%の減収となりました。

#### [フェスティバル部門]

レクリエーションの案件受注数が減少し、地域振興イベントの販売単価も減少したことにより、売上高は1,851百万円と前年同期比10.9%の減収となりました。

#### [プロモーション部門]

案件受注数と広告宣伝・販売促進案件の金額は減少しましたが、広報PRの大型案件が増加したことにより、売上高は1,747百万円と前年同期比6.7%の増収となりました。

#### [コンベンション部門]

案件受注数は減少しましたが、会議・学会・集会の大型案件が増加し、展示会・見本市の販売単価も上昇したことにより、売上高は749百万円と前年同期比21.8%の増収となりました。

#### [その他事業部門]

防災訓練の大型案件が増加したことにより、売上高は452百万円と前年同期比34.4%の増収となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資 産)

当第3四半期会計期間末の総資産は前事業年度末に比べて1,580百万円増加し、8,697百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が1,595百万円増加したことによるものであります。

### (負 債)

当第3四半期会計期間末の負債は前事業年度末に比べて1,084百万円増加し、3,602百万円となりました。これは主に買掛金が125百万円、賞与引当金が113百万円減少したものの、借入金が全体で1,452百万円増加したことによるものであります。

### (純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は前事業年度末に比べて495百万円増加し、5,095百万円となりました。これは主に利益剰余金が489百万円増加したことによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

## (5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	11,000,000
計	11,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数 (株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,851,750	2,851,750	東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)	単元株式数は100株 であります
計	2,851,750	2,851,750	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年12月31日	—	2,851,750	—	1,370,675	—	1,155,397

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 111,400	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 2,734,400	27,344	—
単元未満株式	普通株式 5,950	—	—
発行済株式総数	2,851,750	—	—
総株主の議決権	—	27,344	—

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が500株（議決権5個）含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式82株が含まれております。

②【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
(自己保有株式) 株式会社セレスポ	東京都豊島区北大塚 1-21-5	111,400	—	111,400	3.91
計	—	111,400	—	111,400	3.91

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

# 1 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	958,429	934,945
受取手形及び売掛金	1,422,463	3,017,816
原材料及び貯蔵品	27,959	32,951
未成請負契約支出金	※ 61,722	※ 78,913
その他	149,902	109,979
貸倒引当金	△6,461	△13,632
流動資産合計	2,614,013	4,160,973
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	332,107	339,275
土地	3,310,250	3,310,250
その他（純額）	80,550	67,980
有形固定資産合計	3,722,907	3,717,506
無形固定資産	268,188	286,726
投資その他の資産		
その他	603,718	622,800
貸倒引当金	△91,352	△90,301
投資その他の資産合計	512,365	532,499
固定資産合計	4,503,462	4,536,732
資産合計	7,117,475	8,697,706
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	527,340	401,876
短期借入金	700,000	2,200,000
1年内返済予定の長期借入金	47,544	—
未払法人税等	196,085	148,757
賞与引当金	170,295	57,287
その他	641,168	557,750
流動負債合計	2,282,433	3,365,671
固定負債		
退職給付引当金	81,609	83,115
役員退職慰労引当金	92,537	103,225
資産除去債務	41,113	37,529
その他	20,279	13,108
固定負債合計	235,539	236,978
負債合計	2,517,973	3,602,649
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,370,675	1,370,675
資本剰余金	2,155,397	2,155,397
利益剰余金	1,158,380	1,648,300
自己株式	△63,628	△63,634
株主資本合計	4,620,824	5,110,737
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△21,322	△15,680
評価・換算差額等合計	△21,322	△15,680
純資産合計	4,599,502	5,095,057
負債純資産合計	7,117,475	8,697,706

## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	10,208,758	10,316,699
売上原価	6,900,530	7,019,729
売上総利益	3,308,228	3,296,970
販売費及び一般管理費	2,243,181	2,407,973
営業利益	1,065,046	888,996
営業外収益		
受取配当金	11,617	8,977
その他	4,811	5,430
営業外収益合計	16,429	14,408
営業外費用		
支払利息	2,755	2,592
貸倒引当金繰入額	1,450	200
その他	2	—
営業外費用合計	4,208	2,792
経常利益	1,077,267	900,612
特別利益		
投資有価証券売却益	—	85
特別利益合計	—	85
特別損失		
固定資産除却損	12	262
特別損失合計	12	262
税引前四半期純利益	1,077,254	900,435
法人税、住民税及び事業税	338,283	251,192
法人税等調整額	16,998	49,712
法人税等合計	355,281	300,905
四半期純利益	721,973	599,530

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

※ 未成請負契約支出金とは、仕掛中の請負契約について発生した原価を集計したものであります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	44,838千円	43,232千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月22日 定時株主総会	普通株式	82,213	15	平成28年3月31日	平成28年6月23日	利益剰余金

II 当第3四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	109,610	40	平成29年3月31日	平成29年6月23日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、イベント総合請負業ならびにこれらの関連業務の単一事業セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	263円46銭	218円79銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	721,973	599,530
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	721,973	599,530
普通株式の期中平均株式数(株)	2,740,387	2,740,268

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 平成28年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月7日

株式会社セレスポ  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々田 博 信 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 田 知 輝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社セレスポの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第41期事業年度の第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社セレスポの平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【会社名】	株式会社セレスポ
【英訳名】	CERESPO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 稲葉 利彦
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都豊島区北大塚一丁目21番5号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長稲葉利彦は、当社の第41期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。